

東京都ビジョン懇談会 科学・技術

コンピューテーションによる近代の超克

技術禁忌

技術志向

テクノフォビア的国政からテクノドリブんな地方自治へ

落合陽一

筑波大学長補佐・助教

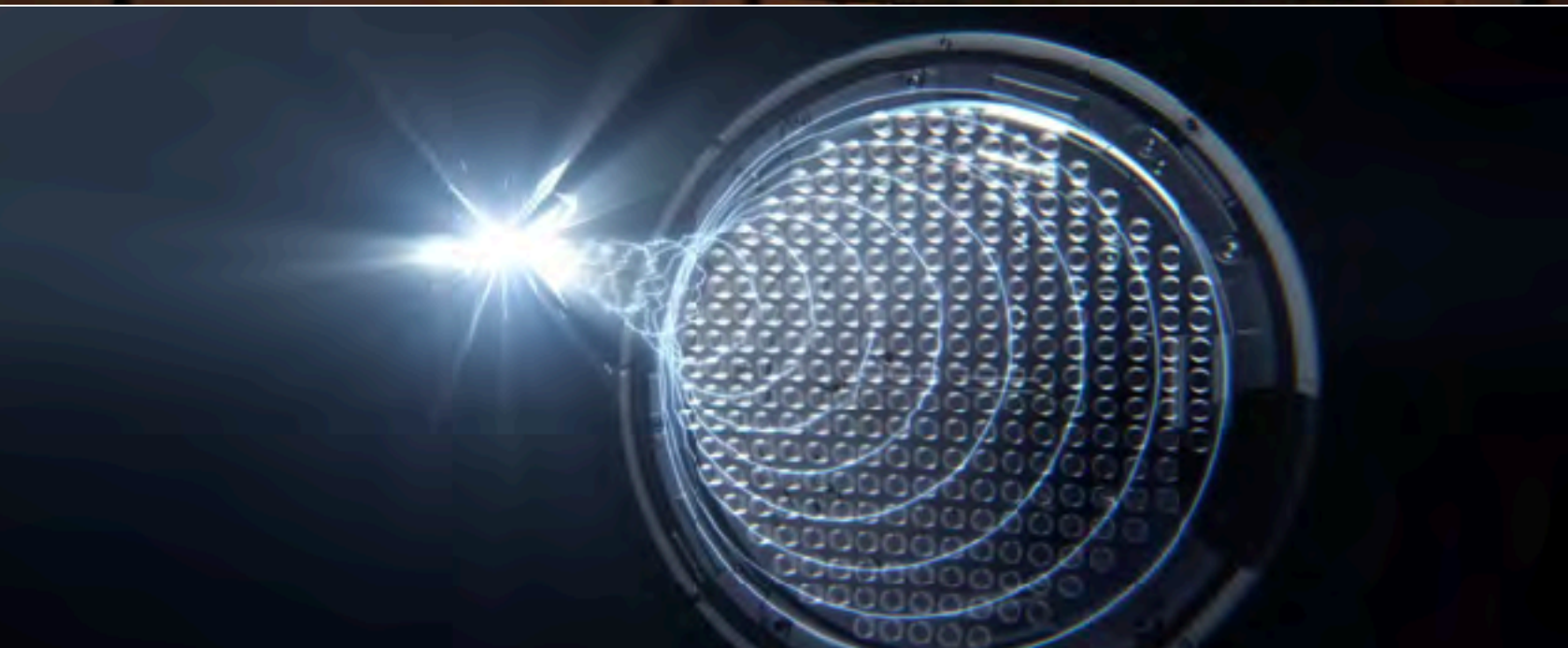
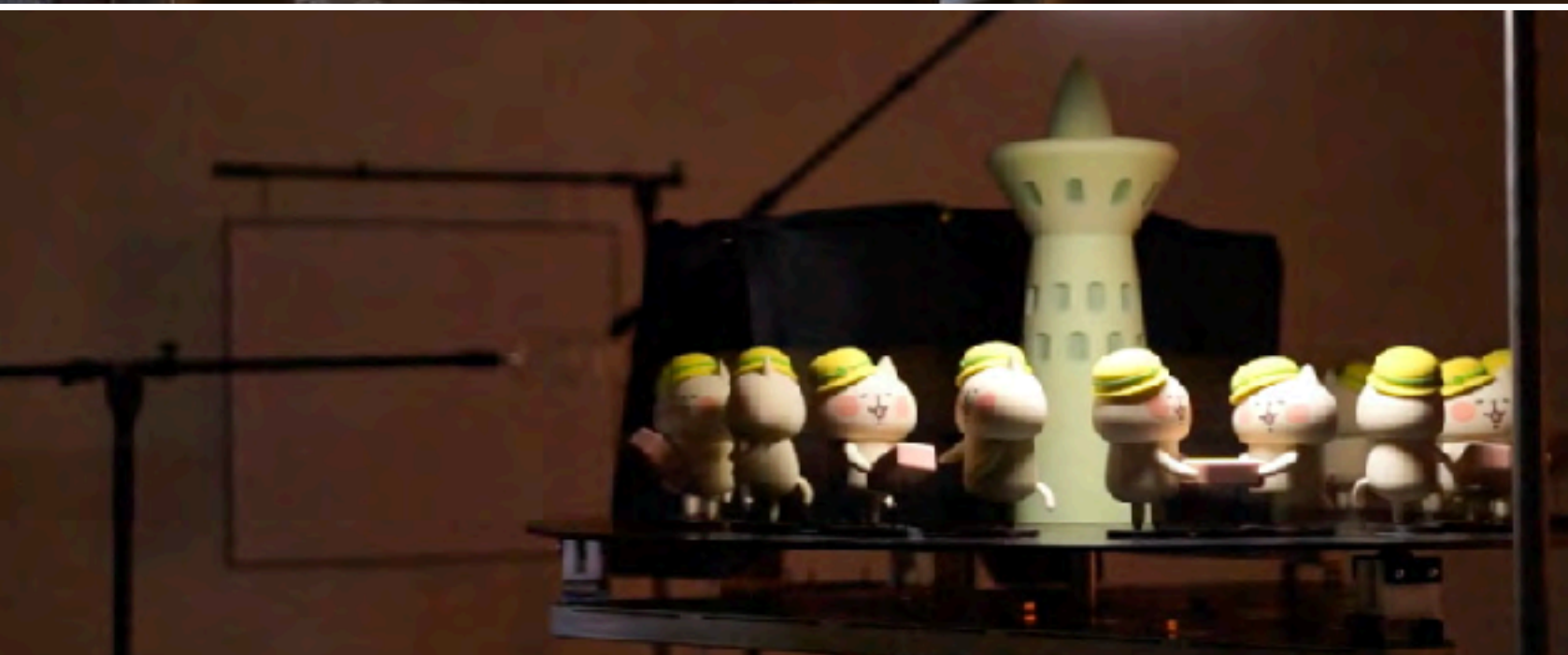
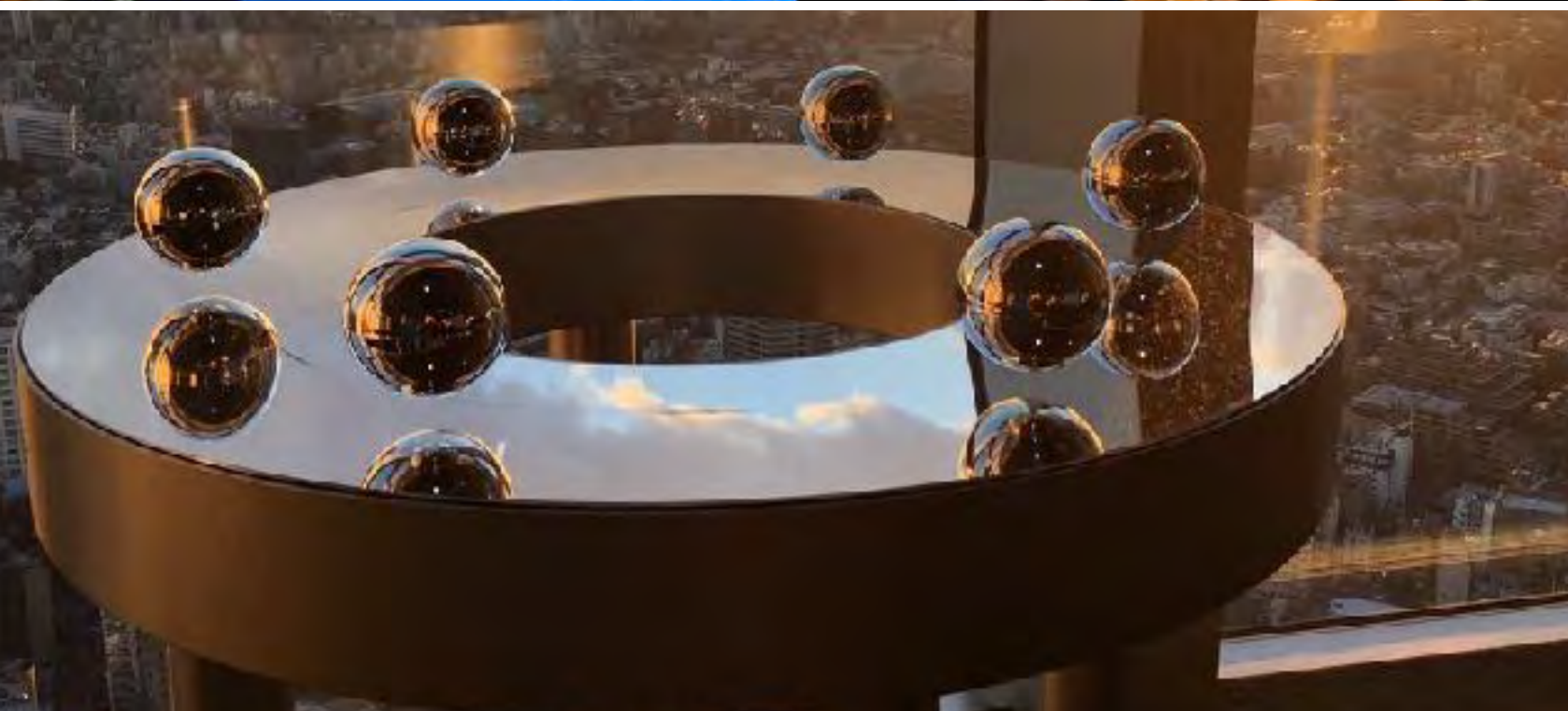
Pixie Dust Technologies, inc CEO

メディアアーティスト

VRコンソーシアム理事/社団法人未踏理事

デジタルハリウッド大学客員教授

大阪芸術大学客員教授



落合陽一

おちあいよういち (29)

メディアアーティスト

博士(学際情報学) 2015.4-

筑波大学 学長補佐 2017.4-

図書館情報メディア系 助教 2015.5-

デジタルネイチャー研究室主宰

人工知能科学センター研究員 2017.4-

知的コミュニティ基盤研究センター研究員 兼任

Pixie Dust Technologies, Inc CEO 2015.2-

大阪芸術大学客員教授 2017.4-

デジタルハリウッド大学客員教授

VRコンソーシアム理事

一般社団法人未踏理事

電通ISIDメディアアルケミスト

博報堂プロダクツフェロー



Digital Nature Group
University of Tsukuba, Yoichi Ochiai Laboratory



Pixie Dust Technologies, Inc.

略歴

開成高校卒

筑波大情報学群情報メディア創成学類卒

日本学術振興会特別研究員DC1

Microsoft Research Research Intern

東京大学学際情報学府博士課程修了

委員や活動など

IPA認定スーパークリエイター・経産省

異能vation・総務省

世界経済フォーラム

グローバルシェイパーズ(2017.7-)

東京都ビジョン懇親会メンバー(2017.1-)

文化戦略会議メンバー(2017.4-)

IPSI-ONE実行委員長(1st,2nd)

SIGCHI CrossFabWS Organizer(2016)

ACC賞, VRC賞等, 審査員(2016-)

ACM, IPSJ会員(2011-)

落合陽一的アジェンダと提言

コンピューテーションによる近代の超克
テクノフォビア的国政からテクノドリブンな地方自治へ

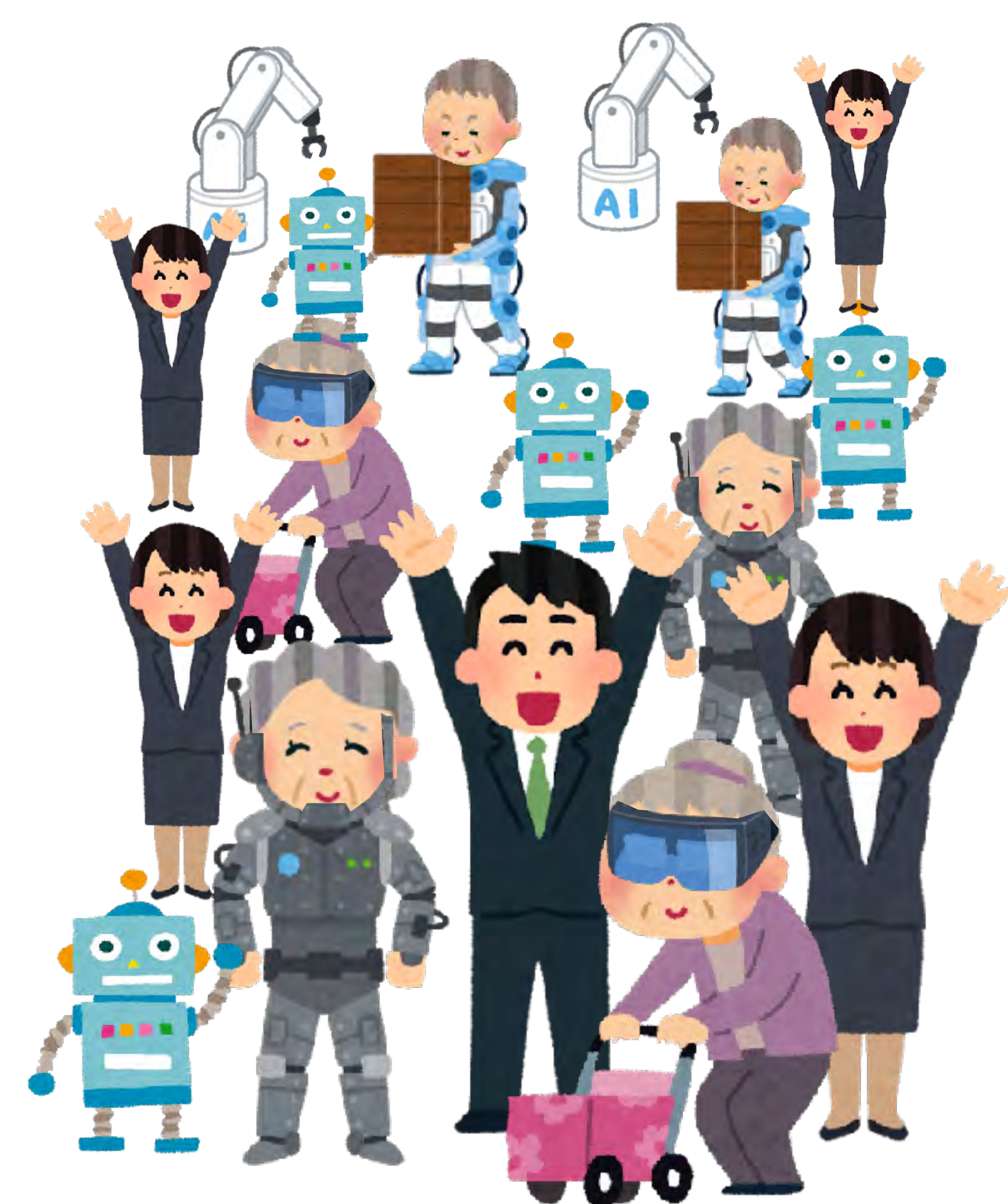
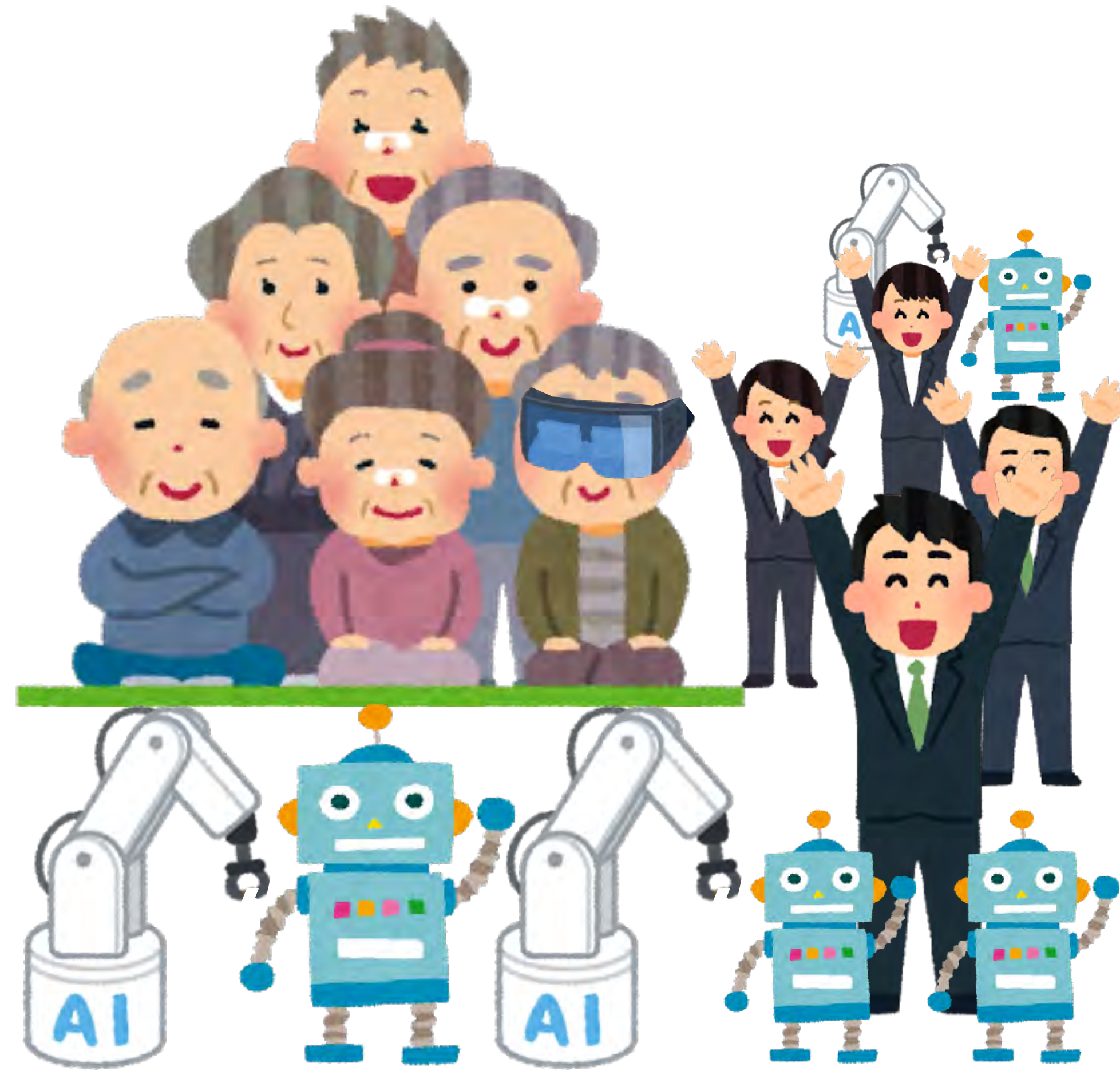
はじめに/自己紹介

落合陽一のポジションの説明

(研究者/経営者/芸術家/大学教員/そして子育て世代の20代として)

提言

1. 少子高齢社会において我々が国際競争力を回復し成長戦略を考えるには、テクノロジーを用いて、多様な個人の特徴や可能性にフィットし、自動化と省人化を目指した社会インフラを構築し、またその市場経済を構築しなくてはならない。そのためには近代的モノの見方から脱却し、画一的なものを智能機械に置き換え、我々自身の思考基盤も更新する必要がある。
2. 個人の時代を目指す上で、教育の拡充は必要不可欠である。近代教育を踏襲する教育制度がまず変わらなくては行けない。大学などの高等教育は税金ベースではなく、研究の社会実装により大学は独立採算にならなければならない。また教育は抽象思考力、価値判断力、問題発見能力を培うものでなくてはならない。未来を予想する力と金融的投資能力が必要である。
3. テクノドリブンな社会運営を行っていく上で、地方自治は国政以上に発言力を持つべきだ。人口の広がりすぎた民主主義は機能しない。多様で依存を許容する社会を地方から考える必要があり、地方議会は国政による政策とローカルコミュニティとの距離を決める場であるべきだ。「独立した個人かつマスによる意思決定」ではなく「共依存的なコミュニティ」による意見の集合が「最大公約数」である国政と対話するべきである。「速度と適応範囲」の違う両者の良さを生かさねばならない。
4. 日本的美的感覚や文化感覚の中にあるテクノロジー受容性を見つめ直すべきである。我々は平成文化/戦後文化/戦前文化/明治文化…(中略)…縄文文化など多義的・両義的なパラダイムの中で生きてきたことを忘却しており、我々の使う「明治以降の日本語言語」が「近代パラダイムに」依存していることに無頓着である。視野を更新して文化政策を考えなくてはならない。



2000年代に習った 日本の高齢化社会のイメージ

働けなくなった高齢者を支えるのは労働する若い人々。人間が人間の面倒をみる絆が大切。それでも人口が減り、若者がいない社会なので働けない老人を抱えた日本の未来は真っ暗です。さようなら。あとは頑張ってください。

2010年代の今、取り組むべき 高齢化社会で経済成長する方法

高齢者を支えるのは高度に発達した自動運転技術や自動化技術。介護の現場でも、ウォシュレットのような手軽さでオムツ替えができるなどお年寄りからも好評。認知症の人々はMRゴーグルで記憶を補強している。貴重な若者は職に溢れず自動化社会で生産性を向上させる。

シンギュラリティが来て能力が 強化されたハッピーな状態

高齢化も進行し人口が減少していくが、全員が機械と融合することによって、何才まででも働ける社会に。若返り技術や不老不死技術なども研究される。他国が人口増加と機械化失業で政情不安に悩まされる中、人口減少の日本は、個人の幸福度が非常に高くなる